

不登校対応加配教員による、未然防止のための「誰一人取り残さない授業」の実践

不登校生徒の状況

本校では、不登校生徒の対応の改善が大きな課題の一つである。対象生徒は、小学校の学習内容の定着が不十分で、中学校に入学してから授業についていくことが難しくなった。また、気が合わない友人とうまく関わることができず、学校に行くのが不安になってしまった。

具体的な取組

○自己決定の場を提供する授業づくり

令和2年に改訂された生徒指導提要の「教科指導と生徒指導の一体化」を柱として、「自己決定の場を提供する授業づくり」に重点を置き、授業が展開できるよう、校内研修を企画し、実施した。

○不登校生徒の居場所づくり・環境整備

校内別室の組織体制や環境整備を行い、不登校生徒の居場所づくりに努めた。

また、生徒の個別ファイルを作成し、情報共有のためのホワイトボードを設置し、全教員での共通理解に努めた。

○関係諸機関とのつながりをもつ

SCやSSWと連携をし、時にはSSWと一緒に家庭訪問を行い、不登校生徒とその保護者への支援を継続した。学級担任が訪問できないときに、加配教員やSSWが対応をして、生徒との定期的な面会を保ち、関係を絶やさないようにした。

○校内研修会の企画・実施

毎月、不登校委員会を実施し、各学年の不登校生徒の情報共有とアセスメントを行った。また、不登校支援をテーマに、講師による研修会を企画し、校内の支援体制の強化に務めた。



成果

不登校対応加配教員が配置された令和5年度は、学校内外の機関等による相談・指導等を受けていない生徒は0人となった。また、令和6年度には学校復帰率が25.71%となるなど、成果を挙げることができた。そして「誰一人取り残さない授業」の視点で授業が展開でき、教職員が不登校対応について考えを深めることができた。

課題

成果が感じられた取組を、来年度以降も続くような組織体制を確立し、持続可能な対応が図れるよう、教員一人一人が高い意識で生徒に対応していくことが必要である。